



## “継続こそ力なり”～体育祭を通して～

校地内にはつつじの花に変わり、紫陽花の花が色づき始めた今日この頃、新学期がスタートしてから2ヶ月が経ちました。

さて、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ここ2年間は無観客だった体育祭。今年度は予行に1, 2年生の保護者、本番当日は3年生の保護者と限定付きではありましたが、保護者の皆様にも子どもたちの勇姿を参観していただくことができました。私も長い教員生活の中で予行の時に保護者の皆様に参観していただいた経験がなかったので、今年は体育祭を2回実施したような気持ちになりました。体育祭当日を迎えるにあたり、事前に各ブロック長から意気込みを聞きました。

- 31組 橙ブロック「私は一人ひとりが『最高の体育祭だなあ』と思ってもらえるように、何事も自分から行動し、ブロックを盛り上げられるように頑張ります。」
- 32組 緑ブロック「一人ひとりが目標を持って取り組み、その目標に向かって全員が全力で挑める体育祭にしたいです。」
- 33組 桃ブロック「自分はこの体育祭をこの3年間で一番楽しかった、やりきったと思える体育祭にします。そのために一致団結して頑張っていきます。」
- 34組 青ブロック「終わった後に心から楽しかったと思えて、自分をさらに成長させられるような体育祭にしたいです。」
- 35組 黄ブロック「私はこの体育祭が終わったときに良かった、楽しかったと思えるような最高の体育祭にしたいです。」
- 36組 赤ブロック「私は団長や体育委員だけではなく、全校生徒で創り上げ、『今までで一番楽しかった』と胸を張って言えるような体育祭にしていきます。」

当日は各ブロック長の言葉どおり、「動」と「静」のメリハリのある素晴らしい体育祭になったのではないかと思います。楽しむところは思いっきり楽しむ。集団を意識して整列したり、人の話を聴く場面ではしっかりと聴く。その場の状況を的確に判断し、考えて行動していた点では正に“考動”ができたと言っても過言ではないと思います。しかし、そうした姿勢は一朝一夕にできたものではありません。毎日の体育の授業をはじめとして、日常の学校生活の延長線上から生まれたものだと思っています。それは“積み上げた力”言い換えれば“継続こそ力なり”ではないでしょうか。是非、体育祭で学んだことを今後の学校生活でも活かしてくれることを期待しています。



## 授業力向上を目指して研究授業を実施します！

昨年度に引き続き、本校では県の『かながわ学びづくり推進地域研究委託事業』を受託し、授業改善に取り組んでいます。年間2回の研究授業および研究協議と夏季研修会、2月研修会を実施する予定です。コロナの感染状況にもよりますが、近隣の小学校の先生方にも参加を呼びかけていきます。また、逆に本校の職員が小学校の授業を参観したり、研修会にも参加させていただく予定です。

すでにプリントでお知らせしたとおり、6月2日の6校時に次のように各学年1クラスずつを対象として研究授業を実施いたします。他のクラスについては、5校時で下校となりますので、自宅学習するようにお声かけいただけると幸いです。よろしくお願いたします。

1年1組 理科 神戸正博先生    2年6組 理科 高橋朋己先生    3年3組 道徳 庄司直尚先生

## 学校評議員の皆様、お世話になります！

今年度の学校評議員さんは次の5名の方にお引き受けいただき、5月11日（水）に第1回学校評議員会を実施いたしました。

- ・高山 康人 様（藤沢西高等学校長）・齊藤 康 様（湘南大庭市民センター主幹）
- ・國丸 明子 様（六会地区民生委員）・水村 なつみ 様（保護者代表）
- ・市丸 佳世子 様（介助員・学校施設管理員）

授業参観後、私の方から学校教育目標や重点目標についてご説明し、各学年主任・8組担当職員・生徒指導担当から生徒の様子等を情報提供させていただきました。評議員の皆様から次のようなご意見やご感想をいただきました。

- ・生徒一人ひとりが主体的に考えて行動させる機会を今後も増やして欲しい。
- ・「指導と評価の一体化」を目指して今後も授業改善に取り組んで欲しい。
- ・授業に取り組む姿勢がとても良く、校舎内の清掃が行き届いていて、きれいでした。

今後も滝の沢中学校をより良い学校にしていくために、様々な立場からご意見をいただき、学校運営や教育環境整備につなげていきたいと考えております。

## 自尊感情を育むために～NHK『君の声が聴きたい』～

先日、NHKで若い世代の声に耳を傾け、幸せを感じられる社会への手がかりを探るプロジェクト『君の声が聴きたい』が放送されていました。現在、子どもの幸福度を測るユニセフの調査で、日本は精神的な幸福度が先進38か国中37位でした。この結果にわれわれ大人はどう受け止めていけばいいのか。その番組のゲストとして一昨年度、本校において「自尊感情」をテーマにした職員研修の講師としてお招きした日本ウェルネススポーツ大学教授の近藤卓先生が出演されました。その中で改めて自尊感情を育むことの大切さやそのために大人が子どもたちとの共有体験を増やしていくことの重要性を述べていました。自尊感情はどんな時も自分を支える感情となります。学校でもその点を意識して取り組んでいきますので、ご家庭でも是非、お子様の良い点や得意なものを認めていただき、自尊感情を育てていただければ幸いです。よろしくお願いたします。

## “未来の先生”が来ています！～2人の実習生が来校中～

5/16（月）から6/3（金）までの3週間、本校の卒業生でもある2人の教育実習生が来校し、先生になるための勉強をしています。教科指導・生徒指導・学級経営・部活動を始め、体育祭などの行事への取り組みなど、多岐にわたり、熱心に関わってもらっています。おそらく、実習前とは教師という仕事のイメージが変わったのではないかと思います。実習生に対して実習を通して感じたことを聞いてみました。

私は多面的に学ぶ積極的な姿勢を大切に教育実習に挑みました。毎日の生活で生徒と関わることが勉強で、色々な表情を見せてくれる生徒たちは本当に可愛かったです。また、教師になってからも常に目標や向上心を持ち続けることが重要だなと思いました。一人ひとりの可能性を引き出すことのできる教師になりたいと強く思いました。

私が教育実習を始めてから感じたことは、思った以上に先生は生徒のことを見ているのだと感じたことです。私が中学生の時は問題行動を起こしがちな生徒に目が行くものと考えていましたが、実際は休み時間や昼食など、様々なところで一人ひとりとコミュニケーションを図っているのです。そのように感じました。

本校での実習を活かして、素敵な先生になってくれることを大いに期待しています。